十一月（小）霜月（しもつき）　昴宿

（十一月七日立冬の節より
月命辛亥二黒土星の月
暗剣殺西南方）

旧十月大
十一月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	火	つちのえうま	三碧	◐上弦一五時三七分、灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、三隣亡、一粒万倍日 旧十月大	八	大安	なる	室	神よし	6.02 16.46	12.59 22.57	13.39 —	3.30 16.21
2日	水	つちのとひつじ	二黒	唐津くんち	九	赤口	おさん	壁	神よし	6.03 16.45	13.39 —	13.28 23.01	5.09 19.01
3日	木	かのえ さる	一白	▣文化の日、明治神宮例祭、東京足立皿沼不動万灯祭、庚申、とおかんや、島根出雲大社神迎祭	十	先勝	ひらく	奎	大みやう	6.04 16.44	14.13 0.08	— 14.14	6.46 20.06
4日	金	かのと とり	九紫	一の酉、消費者センター開設記念日、一粒万倍日	十一	友引	とづ	婁	神よし	6.05 16.43	14.42 1.17	1.22 14.45	7.54 20.46
5日	土	みづのえいぬ	八白	世界津波の日、不成就日	十二	先負	たつ	胃	母倉	6.06 16.43	15.09 2.24	2.34 15.12	8.46 21.22
6日	日	みづのと ゐ	七赤	八せん終り	十三	佛滅	のぞく	昴	ぢう日	6.07 16.42	15.36 3.29	3.25 15.37	9.29 21.56
7日	月	きのえ ね	六白	立冬一九時四五分、天しゃ、甲子	十四	大安	のぞく	畢	よろづよし	6.08 16.41	16.03 4.32	4.09 16.02	10.07 22.29
8日	火	きのと うし	五黄	○望二〇時〇二分、世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭	十五	赤口	みつ	觜	くゑ日	6.09 16.40	16.32 5.36	4.49 16.25	10.42 23.02
9日	水	ひのえ とら	四緑	一一九番の日、太陽暦採用記念日	十六	先勝	たいら	参	天おん	6.10 16.39	17.04 6.40	5.28 16.48	11.15 23.34
10日	木	ひのと う	三碧	京都松尾大社上卯大祭	十七	友引	さだん	井	神よし	6.11 16.38	17.41 7.43	6.05 17.11	11.45 —
11日	金	つちのえたつ	二黒	世界平和記念日	十八	先負	とる	鬼	天おん	6.12 16.37	18.23 8.45	6.42 17.34	0.05 12.14
12日	土	つちのと み	一白	秋の全国火災予防運動（9日～15日）、己巳	十九	佛滅	やぶる	柳	くゑ日	6.13 16.37	19.11 9.42	7.20 17.58	0.37 12.43
13日	日	かのえ うま	九紫	京都嵐山紅葉祭、京都空也堂開山忌、旧えびす講、旧誓文払い、大つち、不成就日	廿	大安	あやぶ	星		6.14 16.36	20.05 10.34	8.00 18.23	1.10 13.11
14日	月	かのとひつじ	八白		廿一	赤口	なる	張	大みやう	6.15 16.35	21.01 11.20	8.47 18.49	1.47 13.43

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」というように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したり、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りのないようにチェックしよう。

【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳（帯結び）、男子五歳の祝い（袴着け）は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	火	みづのえさる	七赤	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁	廿二	先勝	おさん	翼	●	6.16 16.35	22.00 11.59	9.45 19.18	2.30 14.28
16日	水	みづのとり	六白	◑下弦二二時二七分、二の酉、一粒万倍日	廿三	友引	ひらく	軫	十し	6.17 16.34	23.00 12.33	11.00 20.04	3.27 16.20
17日	木	きのえ いぬ	五黄	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式、一粒万倍日	廿四	先負	とづ	角	月とく	6.18 16.33	23.59 13.02	12.23 22.58	4.47 19.28
18日	金	きのと ゐ	四緑	三隣亡	廿五	佛滅	たつ	亢	ちいみ	6.19 16.33	— 13.29	— 13.21	6.12 20.08
19日	土	ひのえ ね	三碧	豊川稲荷秋季大祭、一茶忌	廿六	大安	のぞく	氐	ぶく日	6.20 16.32	0.59 13.55	1.11 13.58	7.19 20.37
20日	日	ひのと うし	二黒		廿七	赤口	みつ	房	大みやう	6.21 16.32	2.00 14.20	2.20 14.27	8.12 21.06
21日	月	つちのえとら	一白	京都東本願寺報恩講（28日迄）、近松忌、小つち、不成就日	廿八	先勝	たいら	心	大くわ	6.22 16.31	3.03 14.46	3.11 14.55	8.58 21.36
22日	火	つちのと う	九紫	小雪一七時二〇分	廿九	友引	さだん	尾	百事吉	6.23 16.31	4.09 15.16	3.56 15.23	9.40 22.08
23日	水	かのえ たつ	八白	▣勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷献穀献繭祭	卅	先負	とる	箕	天おん	6.24 16.30	5.19 15.50	4.41 15.53	10.21 22.43
24日	木	かのと み	七赤	●朔七時五七分 旧十一月小	朔	大安	やぶる	斗	天おん	6.25 16.30	6.32 16.31	5.25 16.23	11.00 23.20
25日	金	みづのえうま	六白	神道修成派教祖教霊大祭	二	赤口	あやぶ	牛	神よし	6.26 16.29	7.47 17.22	6.11 16.55	11.40 —
26日	土	みづのとひつじ	五黄	防府天満宮裸坊祭	三	先勝	なる	女	天おん	6.27 16.29	8.58 18.23	7.00 17.29	0.00 12.20
27日	日	きのえ さる	四緑	十方ぐれ入り	四	友引	おさん	虚	●	6.28 16.29	10.02 19.33	7.53 18.05	0.42 13.02
28日	月	きのと とり	三碧	三の酉、税関記念日、東京品川千体荒神大祭、親鸞聖人忌、一粒万倍日、不成就日	五	先負	ひらく	危	十し	6.29 16.29	10.56 20.46	8.51 18.45	1.29 13.48
29日	火	ひのえ いぬ	二黒	一粒万倍日	六	佛滅	とづ	室	五む日	6.30 16.28	11.40 21.59	9.55 19.34	2.20 14.47
30日	水	ひのと ゐ	一白	◐上弦二三時三七分、岡山最上稲荷火焚祭、三隣亡	七	大安	たつ	壁	大みやう	6.31 16.28	12.15 23.10	11.02 20.50	3.20 16.13

※現行太陽暦は天保暦明治五年十一月九日に採用され、同年十二月三日から実施された。

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういうものか。

【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といい、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があって呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支（えと）による酉の日は「お酉さん」とも「酉の市」ともいって、鷲（おおとり）明神の祭礼が行われる。開運の神として一の酉、二の酉、三の酉、と盛大であるが、三の酉まである年は、活気がありすぎて火事が多いと言い伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしばしば旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。